

令和 4 年 6 月 8 日現在

機関番号：34428

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K12273

研究課題名(和文) QOLと生理的データの改善を目指した心筋梗塞患者のセルフケア支援システムの開発

研究課題名(英文) Development of a self-care support system for myocardial infarction patients to improve quality of life and physiological data

研究代表者

稲垣 美紀 (Inagaki, Miki)

摂南大学・看護学部・教授

研究者番号：60326288

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：心筋梗塞患者及び患者のセルフケアを支援する医療従事者を対象とした面接調査を実施し、セルフケアを実践する上での課題や期待するシステムや支援内容を明らかにした。患者のセルフケアの実践には、セルフケアに関する知識や実際の生活場面での活用に関する課題、周囲のサポートに関する課題等があげられた。また、患者はセルフケアの主体者として医療従事者と情報を共有し相談しながらセルフケアを実践したいというニーズをもっていた。したがって、セルフケアの支援には、患者の能力や家族のサポート体制を踏まえた支援が重要であることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

心筋梗塞患者は、再発予防のために様々なセルフケア(自己管理)が求められ、退院後の生活において、負担感・不安などの心理社会的な問題につながっている。したがって、患者がセルフケアの行動ができていくかや血液データが改善するといった成果に注目するだけでなく、患者の生活の質(QOL)が改善できるよう支援することが重要である。本研究では、管患者及び医療従事者の面接調査より、患者がセルフケアを実践する上での課題や期待するシステム、医療従事者が支援する上での課題などを明らかにした。それらの調査結果は、セルフケア支援システムの構築、具体的な支援プログラムを検討するための重要な知見となった。

研究成果の概要(英文)：We conducted an interview survey of patients with myocardial infarction and healthcare professionals who support patients' self-care to identify efforts in practicing self-care and the systems and support they expect. Patients' practice of self-care included issues related to their knowledge of self-care and its application in actual life situations, as well as issues related to the support of their surroundings. In addition, patients, as the main actors of self-care, wanted to practice self-care while sharing information and consulting with health care providers. Therefore, it was suggested that it is important to support self-care based on the patient's ability and family support system.

研究分野：循環器看護

キーワード：心筋梗塞 セルフケア 循環器看護

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

心筋梗塞患者は、再発予防のために多岐にわたるセルフケアを実践する必要があり、退院後の日常生活に適応する過程において身体的制限や心理的負担を経験し、QOL が低下することが危惧されている。海外では、心筋梗塞患者に対する包括的な心臓リハビリテーションによる QOL の改善が明らかにされているが、国内では心臓リハビリテーション実施施設の不足と社会的要因等により、外来での心臓リハビリテーションに通うことができない患者も多い。したがって、発症直後から退院までの急性期の段階から在宅でのセルフケアの継続に注目し効果的な支援を実践することが重要である。また、患者の心理的負担が増強しないようセルフケア行動の達成度のみを評価するのではなく、QOL の改善を目指す必要がある。

心筋梗塞患者のセルフケアと負担感や困難感との関連を明らかにした研究はなく、患者の生活の現状調査にとどまっている。指導内容の遵守は、患者側の要因と医療側の要因が密接に影響しあうこと、患者のニーズに合わせた具体的な指導の不足、医療従事者間での情報交換の不足などが報告されており、医療従事者が支援を実践する上での課題もあると予測される。

2. 研究の目的

(1)心筋梗塞患者のセルフケアを支援している医療従事者が支援する上での課題と支援する上での期待するシステムを明らかにする。

(2)心筋梗塞患者がセルフケアを実践する上での課題、実践する上で期待する支援内容を明らかにする。

(3) 上記の結果より、QOL の改善と生理学的データの改善を目指したセルフケア支援システムを検討する。

3. 研究の方法

(1)平成 29～30 年度

心筋梗塞患者のセルフケア支援を実践している医療従事者(医師、看護師、薬剤師、運動療法士、栄養士、心理カウンセラー)18名を対象とし、セルフケアを支援する上での課題、支援する上での工夫、期待するシステムについて、半構成的質問用紙を用いて、面接調査を実施した。面接データは質的に分析した。逐語録を作成し、支援する上での課題、支援する上での工夫・支援する上で期待するシステムを表現していると考えられる部分を抽出し、コード化し、分類した。

(2)平成 30～31 年度

循環器外来に通院している患者 15 名を対象とし、セルフケアを実践する上での課題、期待する支援内容について、半構成的面接調査を実施した。面接データは質的に分析した。逐語録を作成し、支援する上での課題、支援する上で期待する支援内容を表現していると考えられる部分を抽出し、コード化し、分類した。

(3)令和元年～2 年度

上記の面接調査の結果より、医療情報ネットワークを使用したセルフケア支援システムを検討し、試行した。

4. 研究成果

(1) 医療従事者が支援する上での課題は、【心筋梗塞に対する知識不足によりセルフケアと疾患が結びつかない】などの 15 カテゴリーに分類された。実践している工夫は、【患者の理解度や性

格に合わせて説明を変更する】などの4カテゴリーに分類された。支援する上で期待するシステムは、【在宅療養を支援できる地域の施設との連携やネットワーク】などの5カテゴリーに分類された。結果より、セルフケアの支援には、多職種による患者のセルフケアに関する情報収集と評価、個々の患者の理解度や生活状況や家族背景に合わせた説明の必要性が示唆された。さらに、心筋梗塞後の患者のストレスや倦怠感などの心身の状況に配慮した段階的な支援、患者の意思や希望を尊重した支援、患者のセルフケア意欲を向上できる支援の重要性が考えられた。

(2)心筋梗塞患者が実践する上での課題は、【薬や日常生活の管理方法がわからない】【通常と違うことや手間のかかることはできない】【セルフケアに必要な資源を上手に活用できない】【多忙な仕事や業務内容からセルフケアができない】などの9カテゴリーに分類された。実践する上で期待する支援は、【入院中や心臓リハビリ室で医療従事者から受けた説明やパンフレットの記載内容を活用したい】、【検査結果や治療について説明を受けて納得して治療を受けたい】、【個別の状況にあった手軽な管理ができるよう支援してほしい】の3カテゴリーに分類された。結果より、セルフケアの知識があっても実際の生活の中での活用に課題があり、また多忙な仕事や業務内容、周囲とのつきあいから心臓に良くない生活習慣を改善できない状況があり、セルフケアを実践することでの心身のデメリットも危惧された。時間の経過による意欲の低下が考えられた。患者はセルフケアの主体者として、治療やセルフケアの情報を医療従事者と共有し、相談・決定しながら実践したいというニーズをもっており、個々の能力や背景に沿った支援方法を充実させる必要がある。

(3)面接調査の結果より、患者の個々の能力や背景に沿った支援の充実や院内外の支援体制や各専門職の連携に関する課題を解決できる支援システムの構築が必要であると考え、医療情報ネットワークを使用したセルフケア支援システムを検討・試行した。試行した結果、個々のICTリテラシーによって、システムの利活用状況が影響を受け、システム導入時だけでなく継続的なサポートが必要であること、既存の病院ネットワークとの連携などの課題があげられ、さらなるシステムの検討が必要といえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 稲垣美紀, 竹下裕子, 稲垣範子, 田中結華, 長沢美和子, 大田博, 岡田彩子	4. 巻 8 (1)
2. 論文標題 心筋梗塞患者のセルフケアを支援する医療従事者が認識している課題と期待するシステム	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 摂南大学看護学研究	6. 最初と最後の頁 36-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miki Inagaki, Hiroko Takeshita, Noriko Inagaki, Yuka Tanaka, Miwako Nagasawa, Hiroshi Ota, Ayako Okada	4. 巻 21(2)
2. 論文標題 Efforts of healthcare professionals providing self-care support to patients with myocardial infarction	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 インターナショナルNursing Care Research	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Miki Inagaki, Hiroko Takeshita, Noriko Inagaki, Yuka Tanaka, Miwako Nagasawa, Hiroshi Ota, Ayako Okada
2. 発表標題 Efforts of healthcare professionals providing self-care support for patients with myocardial infarction
3. 学会等名 The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲垣美紀, 竹下裕子, 稲垣範子, 田中結華, 大田博, 岡田彩子
2. 発表標題 心筋梗塞患者のセルフケアを支援する医療従事者が感じている課題と期待するシステム
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹下 裕子 (吉田裕子) (Takeshita Hiroko) (10437668)	摂南大学・看護学部・准教授 (34428)	
研究分担者	稲垣 範子 (Inagaki Noriko) (90782714)	摂南大学・看護学部・講師 (34428)	
研究分担者	長沢 美和子 (Nagasawa Miwako) (30845748)	摂南大学・看護学部・助教 (34428)	
研究分担者	田中 結華 (Tanaka Yuka) (80236645)	摂南大学・看護学部・教授 (34428)	
研究分担者	大田 博 (Ota Hiroshi) (10739775)	福岡大学・医学部・講師 (37111)	
研究分担者	岡田 彩子 (Okada Ayako) (10425449)	日本赤十字看護大学・さいたま看護学部・教授 (32693)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	三井 巳奈子 (Mii Minako)	北摂総合病院・看護部・看護師	
研究協力者	森井 功 (Morii Isao)	北摂総合病院・循環器科・医師	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関